

2019 年度 事務事業評価(2018年度実施事業事後評価)シート / 2020 年度 実施計画調書 (  新規  拡充  縮小  休止・廃止  現状維持 )

1 事務事業の基本情報										整理番号	105							
事務事業名	教育指導充実事業費			補助区分	<input type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県補 <input checked="" type="checkbox"/> 市単	終期	<input type="checkbox"/> 決まっている (年度まで) <input checked="" type="checkbox"/> 決まっていない	予算科目	区分	一般会計	款	10	項	01	目	03	事業	02
担当部	教育委員会	担当課	指導課	担当係														
位置付けられている計画等	<input checked="" type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画 <input type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」 <input type="checkbox"/> 常総市復興計画 <input type="checkbox"/> 市民等からの要望 <input type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <input type="checkbox"/> その他の計画 (名称: )			根拠法令及び市条例等	<input type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称: ) <input type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称: ) <input type="checkbox"/> 市の条令・要綱・規則等 (名称: )													

2 事務事業の目的			①「望ましい状態」とはどのような状態か? → ②一方で、「現状や課題」はどうか? → ③そのためには何をすべきか? という過程で考えていただいても結構です。		
現状課題	全国学力・学習状況調査の結果、および県の学力診断テストの結果では、市内児童生徒の学力が二極化している現状がある。市内小中学校では授業改善の取り組みは行われており、各種調査の結果は向上しているものの、継続的な学力向上の取り組みが必要である。	誰・何を対象に	小中学校全児童生徒		
		どのような方法・手順で	夏季休業中に学習教室「学びの広場」を開催し、1学級に1人学習サポーターを配置することで、一人一人に応じたきめ細やかな支援を行う。 茨城県の学力診断テストを実施し、その結果を分析し、個別の支援を行う。		
望ましい状態	児童生徒の学習に対する苦手意識を軽減し、すべての子供が基礎・基本を身に付けている状態。 全国学力・学習状況調査において、常総市の平均が全国平均を超える状態になる。 県の学力診断テストにおいて、常総市の平均が茨城県平均を超える状態になる。				

3 事務事業の主たる成果指標										④ 数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。									
指標名	全国学力・学習状況調査において、常総市平均正答率/全国平均正答率	単位	%	目標値	100	目標年次	2021	年度	指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)	学力向上を目指した取り組みを行うことで、全国学力・学習状況調査において、常総市の平均が全国平均を超える状態になるようにしたい。									

4 事務事業の実績 ⑤										⑥ 当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。									
年度	2016年度				2017年度				2018年度										
	業務名		活動量		業務名		活動量		業務名		活動量								
事務事業を構成する主な業務	①	学びの広場における講師派遣	42人	①	学びの広場における講師派遣	43人	①	学びの広場における講師派遣	472人										
	②	全国学力・学習状況調査の結果分析	全校で実施	②	全国学力・学習状況調査の結果分析	全校で実施	②	全国学力・学習状況調査の結果分析	全校で実施										
	③	県学力診断テストの実施	小3～中3	③	県学力診断テストの実施	小3～中3	③	県学力診断テストの実施	小3～中3										
	④	県学力診断テストの結果分析	全校で実施	④	県学力診断テストの結果分析	全校で実施	④	県学力診断テストの結果分析	全校で実施										
	⑤	知能検査の実施と分析	小2,中1で実施	⑤	知能検査の実施と分析	小2,中1で実施	⑤	知能検査の実施と分析	小2,中1で実施										
	⑥	教材備品の購入	1913436円	⑥	教材備品の購入	1749600円	⑥	教材備品の購入	1948320円										
	⑦			⑦			⑦												
	⑧			⑧			⑧												
	⑨			⑨			⑨												
	⑩			⑩			⑩												
	⑪			⑪			⑪												
	⑫			⑫			⑫												
目標値に対する実績値		96 %		目標値に対する実績値		99 %		目標値に対する実績値		100 %									
決算額	7,748,000 円	内訳	特定財源 0 円	一般財源 7,748,000 円	計	8,547,000 円	内訳	特定財源 0 円	一般財源 8,547,000 円	計	8,308,706 円	内訳	特定財源 0 円	一般財源 8,308,706 円					
	(住民一人あたりの行政コスト)		128 円		(住民一人あたりの行政コスト)		141 円		(住民一人あたりの行政コスト)		138 円								

5 担当者評価 ⑦		⑧ 実施したことによる成果や問題点を記入してください。	
成果	目標どおり	成果内容	全国学力学習状況調査の結果では、(常総市平均-全国平均)の値が、平成29年度比で小学校で+4.2、中学校で+4.5となった。学びの広場における講師派遣や、学力診断テストの結果分析に基づいた授業改善などが成果につながったものとする。
問題点			全国学力・学習状況調査では、小学校の平均は昨年度に引き続き、全国平均とほぼ同じ点数であった。また、中学校については全国平均を超え、大きく結果を伸ばすことができた。今回の結果を踏まえ、さらなる向上をめざして検討を重ねる必要がある。

6 担当部長及び担当課長評価 ⑨		⑩ 担当部長・課長で協議のうえ、評価してください。	
事務事業の方向性			
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止			
評価理由	小学校、中学校とも学力面の向上がみられ、各事業が一定の成果につながったものとする。今後さらなる改善を図るために、本事業だけでなく、各種研修会の実施や学校訪問による指導などとの連携を図っていく必要がある。		

7 実施計画 ⑪										⑫ 今後3年間の事業内容について、どのようなことを・どの程度実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の『歳出の計』と『歳入の計』は一致させてください。									
年度	2019年度				2020年度				2021年度										
事業内容	学びの広場における講師派遣 全国学力・学習状況調査の結果分析 県学力診断テストの実施 県学力診断テストの結果分析 知能検査の実施と分析 教材備品の購入 「わたしたちの常総」印刷製本費				学びの広場における講師派遣 全国学力・学習状況調査の結果分析 県学力診断テストの実施 県学力診断テストの結果分析 知能検査の実施と分析 教材備品の購入				学びの広場における講師派遣 全国学力・学習状況調査の結果分析 県学力診断テストの実施 県学力診断テストの結果分析 知能検査の実施と分析 教材備品の購入										
	成果指標	指標名	全国学力・学習状況調査において、常総市平均正答率/全国平均正答率	単位	%	目標値	100	指標名	全国学力・学習状況調査において、常総市平均正答率/全国平均正答率	単位	%	目標値	100	指標名	全国学力・学習状況調査において、常総市平均正答率/全国平均正答率	単位	%	目標値	100
予算額	歳出	計		10,582 千円		計		8,382 千円		計		8,382 千円							
		特定財源			特定財源			特定財源											
	歳入	一般財源	10,582 千円		一般財源	8,382 千円		一般財源	8,382 千円										
		計	10,582 千円		計	8,382 千円		計	8,382 千円										

8 財務アドバイザーの見解	
『常総市財政健全化計画』では、2017～2019年度までの3年間で約20億円の財源不足が生じる可能性が指摘されている。この厳しい財政状況を鑑み、本事務事業は2020年度の当初予算の要求において、その一般財源金額については費用対効果が最も高いと判断された2018年度の一般財源決算額の金額以下の予算要求を行うべきである。当該金額の枠内で最大の効果を発揮する、市民目線の筋肉質な事務事業の計画と実行を期待する。	

9 行政改革懇談会(市民)の意見	
担当部長及び担当課長評価のとおりでよい。学力診断テストにおいて、全国平均を超える実績は素晴らしい。学力面の向上が見られたことは、本事業による一定の成果があったと考えられる。今後も引き続き取り組んでいただくと共に、学力面以外の力を育てることに力を入れていただきたい。	

10 最終評価(行政改革推進本部) ⑬	
事務事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
評価理由	児童生徒の学力向上の取り組みとして、また、一人ひとりの子どもに応じたきめ細やかな支援を行うためにも、必要不可欠であるので継続すべき事業とする。

11 事務事業の改善理由及び改善部分 ⑭		⑮ 実施計画のみ作成する場合は拡充・縮小・休止・廃止部分もこの欄に記入してください。	
事業内容			